

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0171400906), 法人名 (社会福祉法人 函館大康会), 事業所名 (グループホームこんはこだて), 所在地 (函館市時任町35番4号), 自己評価作成日 (平成30年1月31日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月28日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2018\_02\_2\_kihon=true&JigyosyoCd=0171400906-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年2月21日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人に合った個別ケアを重点に考え、それぞれの年齢、性格、生活歴に合わせた生活を送ることが出来るように努めている。季節ごとの行事や、地域との交流を目的とした行事に積極的に参加しており、地域へ向けてのアピールとして広報活動を近隣の住民に協力を得ながら行い、グループホームというところの理解を深めて頂ける様働きかけもしている。また入居者のご家族には毎月の広報誌に個別で職員より一言を添え、毎月の生活や身体の様子をお知らせしている。ご家族にも認知症の高齢者を支えるチームの一員として、ご家族の協力が必要であることを伝え、意識して頂ける様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、五稜郭公園に近く接し、昔からの高級住宅地域と呼ばれた閑静な住宅地に位置し、桜ヶ丘通りや遺愛学園といった桜の名所に隣接した風光明媚な地域であり、また幹線道路や路面電車にもほど近い、利便性にも優れた地区に立地している。建物は木造二階建てで、古めかしいが愛着のある造りにユニット9人が共同生活を続けている。同敷地内には他の法人名のGHとクリニックが事業展開しており、同じ母体として相互の協力関係が強く結ばれている。当事業所の優秀な点のひとつは、地域的な交流の深さが挙げられる。開設以来16年の期間で、事業所でのイベントへの参加や避難訓練等々でのお願いする側から、地区での祭りに参加し共に協力し合う、また行政等の相談者として地区を担う等の、相互の協力関係となっている点を挙げたい。散歩での会話や季節の花の差し入れが普通に行われ、災害時には庭先や車庫を利用していただき、との申し出もあり、常に自然体での交流が続いている。医療面でも信頼できる体制で臨んでおり、隣接するクリニックからほぼ毎日の往診や、必要時にはすぐ駆けつけてくれる訪問看護等々により安心できる医療体制が維持されている。その人に最善の介護を、と掲げ実践している当事業所に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を「地域の中で一人一人が自分らしく当たり前の生活を送る」と定め、各自が身分証明書と共に携帯したり、施設内の数か所に掲示していつでも確認することが出来るようにしている。	理念は、地域の中で・自分らしく・生きる事を前面に打ち出して、事務所内に掲示し、利用者や家族、来訪者、職員に向けて宣言し、介護の実践で活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会への加入をし、地域交流イベントへの協力を仰いだり、町会行事への参加や地域・世代間交流を図っている。	地元町内会は協力的であり、事業所の趣旨も理解してくれた中で、積極的に行事や災害訓練に参加し、花壇の清掃等々も地元高校と行い、また事業所でもお便りを毎回町内会に回覧し、相互交流体制を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流イベントの実施や、地域へ向けた広報誌の作成・発行を行い、地域住民の認知症への理解を深めて頂ける様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃から交流をさせて頂く中で、町内会の方などの外側からの率直な意見・助言・提案を頂き、グループホームのサービス向上に活用させて頂いている。	町内会役員や包括、家族等の参加を得ながら隣接するグループホームと共同開催している。議事内容も行事の報告から事業所内事故やヒヤリハットも論議に載せ、複合的な視線からサービスの質向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者相談窓口担当者より入居に関する相談を受けたり、サービス向上に繋がる研修の開催を要望する等している。また、運営推進会議のご案内を送付し参加の依頼も行っている。	包括センターが軸になった研修会や事業所連絡会に出席し、相互の情報交換を行っており、行政の窓口にも、各種書類の提出時に相談をお願いして、信頼性のある関係を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修へ参加し、身体拘束への理解を深め正しい知識を持ちながら日々のケアに努めている。また、スタッフミーティングの際に日頃からのケアについて職員同士で必要な際は指摘し合い、話し合っている。	身体拘束廃止委員会を発足させ、定期的に話し合いを持ち、職員会議の席上で報告している。常にマニュアルはそばに置き、グレーゾーンについても具体的な事例で検証し、不適切なケアは必要ない事を職員一同で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修へ参加し、虐待への理解を深め日常の中で虐待防止への意識を持ちケアに努めている。また、何が虐待になるか考えるよう意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や外部研修への参加を促し、権利擁護に関する制度の知識を深め、正しい知識を持ちながら支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居・改定時に契約書・重要事項説明書・医療連携説明書を基に説明を実施しており、理解・納得を得てから同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会時や電話、手紙等でご家族からのご意見・要望を聞き取り、入居者からも直接聞ける方は直接聞き取り、意向を伝えられない方に対しては表情などから思いを感じ取れるよう努めている。	お便りを発行し、写真も同封で利用者の生活の様子をお伝えしている。家族の意見や苦情は来訪時に聞き取り、職員で検討し、推進会議でも報告をしながら、意見の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談を実施している。その他スタッフミーティング等で意見交換や提案を聞き、スタッフの自主性を引き出せるように努めている。	人事考課制度を採用し、個人面談を年に2回実施、また毎月の職員会議や申し送り等で、意見や提案、各種アイデアを受け入れ、検討しながら実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課制度を設け、職員の努力を反映できるよう努めている。また、キャリアパス制度を用い給与体制改善や向上心を引き出せるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を促し、法人全体で職員育成に力を入れ取り組んでいる。又、面談やスタッフミーティングを通じて専門職としての意識や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の研修や交流会への参加、外部研修による実習生の受け入れなどを通じて情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居時にご本人と面談する機会を設け、一部センター方式を活用して本人の性格・特徴を出来る限り理解したうえで、信頼関係の構築に努め、顔馴染みの人間がいるという安心感を持って過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居時・入居後に都度話し合いの機会を設け、ご家族の意向を聞き取り、支援に繋がっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話し合いの中や、過去の生活歴を元にしたアセスメントを繰り返し、必要なサービスやそれ以外の対応の必要性を見極めることに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の知らない事を教えて頂いたり、得意な事をして本人の持っている力を発揮して頂き、お互い助け合いが出来る関係性作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族には必要に応じて電話でご本人と会話する機会を設けたり、面会の際に直近の様子をご家族へお伝えし、円滑に会話出来るように努め、イベントごとへの参加を呼び掛けたりしご家族とご本人の絆を保たれるような関係性作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後でも、ご家族の他友人・知人が気軽に面会に来ていただけるよう働きかけて、誰でも面会しやすい環境づくりに努めている。外出や外泊についてもご家族や医療機関と連携を図り、馴染みの場所に行ったり出来るよう対応している	利用者の要望で桜が観たいとの希望が多く、春の散歩は、近隣の桜見物に出掛けている。室内にも馴染みの家財を配置し、また離れた馴染みの場所には、家族の協力を得ながら断ち切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極めを行い、把握したうえでトラブル等をさりげなく回避できるよう周囲へ配慮し、居心地の良い関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご葬儀への参加や、ご家族からの相談などサービスが終了しても関係性を崩さず、少しでもフォローできるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人・ご家族からの聞き取りにてアセスメントやモニタリングを行い、希望や意向の把握に努めている。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、表現を頼りに本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、入居前の聞き取りの他入居後の日々の聞き取りの中でアセスメントやモニタリングを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメント、モニタリングを繰り返し、スタッフミーティング等の場で定期的に情報の整理を行い一人一人の情報把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン原案を基にしたケア会議を実施し、ご本人やご家族の意向や現状に沿ったケアプランを作成している。	ケア会議でモニタリング等を検討し、本人や家族の意向を据えながら、介護計画を作成し、短期目標を設定している。介護日誌には、短期目標への行程を日々落とせるよう機能しており、また病変等の場合は、即座に変更を検討し、現実に即した計画を作成している、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践し、気づき等があればその場や送り、会議の場で発言したり個別の記録や連絡ノートを利用して情報共有し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に添った外出支援や、必要に応じた受診同行を行ったり、食事の時間と被る際にはご意向の元、食事の提供も行うなど支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事ごとに町内会や近隣保育園などからご協力を頂いたり、年2回の避難訓練では地区の消防署からご協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じた受診支援をしている。また、隣接している診療所や整形外科、歯科、眼科などの医療支援を受けることが出来る体制を確保している。	母体病院がかかりつけ医の場合が多いが、専門科受診でも、職員が同行する場合が多い。看取り介護を含め、往診医の必要性から協力医へ主治医が変わる場合もあり、医師間の調整等を経ながら、安心で安全な医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所への看護職員配置は無いが、隣接している訪問看護ステーションと連携を取り、週1回の健康チェックによる体調管理や、常時相談できる体制を確保しながら支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ入居者の普段の情報を提供し把握しやすいよう努めている。また、入院中の面会を通じ病院側との情報交換を行うなどし、病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化指針に基づき、入居時にご家族へ文書を手渡し口頭で説明を行っている。又、重度化した際に円滑に対応できるよう職員へ法人内外の研修へ参加できるよう呼びかけもしている。	契約時に、書面にて看取りの指針を説明し、同意を得ている。利用者の8割近くはここでの看取りを希望しており、職員研修も強化し、最後まで本人の意向に沿えるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修へ参加し、研修後は会議などの場で他の職員へ伝達している。また、法人内では定期的にAEDに関する研修会の場を設けており、全職員へ参加するよう呼び掛けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、地域の学校や町内会との合同避難訓練も実施しており、避難場所の確認などを行っている。備蓄食料などの準備もしており、常に災害に備えられる体制づくりに努めている。	毎年、2回の避難訓練を消防署の指導により行っている。停電時用の石油ストーブも近々に購入予定で、そのための石油備蓄倉庫も用意し、不意の災害に備えている。	災害の種類によって避難先や避難場所が変更されるが、災害別のマニュアルの用意や、避難先の検証、また家族の避難先の把握、持ち出す薬の保管等々、再度災害対策の検討に期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格などを考慮し、適度な距離感を保ちながら、誇りやプライバシー、自尊心を損ねないような対応に努めている。	接遇は介護の基本であり、礼節や礼儀を逸さないように声掛けや誘導、促し等の応接に注意し、適切な距離感を保ちながら支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が希望を出しやすい雰囲気作りに努め、小さなことでも自己決定できるよう言葉を意識しながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を確認しながら、ご本人の状態やペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを考慮しながら、その日の気温・天候を見て、お洒落に快適に過ごして頂ける様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事を提供する他、職員と共に調理や食事をし、雰囲気から味覚・嗅覚・視覚で楽しんで頂ける様食事提供に努めている。又、片付けにも入居者に気軽に参加して頂ける様雰囲気作りにも努めている。	食材は近隣のスーパーから届けてもらったり、不足分は職員が買い出しで補ったりしながら、一人ひとりの好みや体調に合わせて調理している。また後片付け等のお手伝いも希望者を募り、みんなで楽しい食卓になるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日全入居者の摂取量を記録し、隣接している診療所の栄養士が作成する献立表を基に入居者の趣向も加味しながら、職員間で一人一人の情報を共有し、食事や水分もバランスよく摂ることが出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態に合わせて、個別に時間や回数、実施方法を考慮し支援しながら口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状況や排泄リズムを把握し、体調などに合わせて排泄用品の使い分けを行いながらトイレ誘導・介助を行っている。	排泄はトイレで行う、を実行しており、また時間での誘導や、仕草での促しも行い、乳製品や軽い体操も取り入れながら、自然な排泄になるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせてながら服薬や腹部マッサージなどの排便コントロールを実施し便秘予防に努めている。食事や水分も便秘を予防出来るよう食事のバランスや水分量を把握し、支援できるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の認知症・身体の状態や要望を考慮し、その日その日で入浴時間などを考慮し気持ちよく入浴して頂ける様支援している。	毎日、浴槽にお湯を溜め、いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力・体調など状況に応じ、安心して休息できる場所での時間を確保したり、家事活動や簡単なレクリエーションなど適度な活動による疲労感を得て頂くよう支援し、安眠を保って頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホームで管理をし、個々の能力に応じた服薬方法で支援している。薬の情報をファイリングしていつでも確認出来るようにし、新たな処方が出た時は周知を行い、職員全員が状態観察を出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動への参加をして頂くことにより能力を活かしたり、役割を持って頂くことにより喜びや達成感を味わっていただけるよう支援している。又、行事ごとへの参加による楽しみも持って頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事を出来る限りの入居者が外出できるよう考案したり、ご本人の希望に沿って、体調などを考慮しながら外出できるよう支援している。	季節のドライブの他に、散歩を日課として歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、コンビニに買い物に出かけたり、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人での管理が難しい為、必要最小限の金額をご家族よりお預かりし、管理させて頂いている。ご本人・ご家族と相談しながらいつでも使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の意向に添い、必要に応じて電話の支援を行ったり、手紙などの書物については必要に応じて代読する等工夫をして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分内を季節の行事に応じた模様替えを行ったり、一般家庭と変わらないようなものを配置し、シンプルな配置を考慮するなどし、居心地の良い空間づくりに努めている。	古さを感じる建物であるが、居間も食堂も居心地の良さが伝わってくる居場所となっており、木のぬくもりが、安心感と安堵感を醸し出しており、大正から昭和を生き抜いた利用者には、ゆっくりと過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係、認知症の度合・状態を考慮し、自由に過ごして頂ける様座席の配置を行ったりリビングや和室にソファ、ベッドなどを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物を持参して頂ける様働きかけているが、消極的な状態が続いている。日々の会話を通じ、環境づくりの意義を理解して頂ける様お声がけを続けている。	居室には馴染みの家財や使い慣れたタンス等が配置され、自分だけの部屋として落ち着いて暮らせるように工夫が凝らされている。ただ、全員が使い慣れた家財を持ち込んだ訳ではなく、販売店から直送の場合も生じている。	本人にとって、馴染みの家財の持ち込みが事業所での生活に不可欠であれば、管理者は、事前に家庭訪問を行い、持参する家財について説明し、かつ持参すべき家具を指定するなど、適切な助言方法の工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段の生活の中で転倒防止の為手摺り、椅子の設置やテーブル配置を整理し環境的要因の排除に努めている。		